幌延の防災



災害時の電源について
～充電、足りてますか？～



みなさんこんにちは。11月になり、雪の降る日が増えて、気温もグッと低下し心身ともに冷える季節となってきました。

今月号では、モバイルバッテリーやポータブル電源など、非常時の電源確保について紹介します。

私たちの暮らしは、スマートフォンや家電など多くの電気製品に支えられています。しかし、災害による停電が発生すると、それらが使えなくなり、日常生活に大きな影響が生じます。

中でもスマートフォンは家族との連絡や災害情報の収集など、非常時に欠かせない存在です。一方で、災害時は利用頻度が増えるため、充電切れになる可能性も高まります。

そこで今回は、普段から備えておきたい「モバイルバッテリー」と「ポータブル電源」の特徴を紹介します。それぞれの違いを知り、自分の生活に合った備えを考えてみましょう。



	モバイルバッテリー	ポータブル電源
重さ	200ｇ～400ｇ前後	10kg～20kg前後 （大きいものだと40ｋｇ近い物もある）
用途	スマートフォンの充電が主な用途。	電子機器の充電や扇風機、電気毛布など一部家電を稼働させる。
使用機会	日常的な使用から防災用まで広く使用することができる。 カバンに収まる大きさのものが多いため、持ち運びが簡単。	防災備蓄用（特に在宅避難）や車中泊での使用が主となり、「非常用電源」としての側面が大きい。
注意点	自分の端末に合わせた充電端子がないと充電ができない。	全体的に大きく、重たいものが多いので、手軽な持ち運びは難しい。
	気温が低い場合、バッテリー内部の化学反応が鈍くなり十分な電力を放出できなくなることがある。	

比較的安価なモバイルバッテリーは、コンビニエンスストアなどでも購入でき、手軽に備えられることから、防災対策の第一歩としておすすめです。

一方、スマートフォンだけでなく、パソコンやタブレットの充電、さらには一部の家電も使用したい場合は、ポータブル電源が適しています。

非常食や飲料水、生活用品の備蓄とあわせて、「電源の備え」についてもこの機会に見直してみましょう。



※本記事は一般的な機種を例に特徴を紹介しています。実際に購入・使用する際は、製品の取扱説明書やメーカーの注意事項を必ず確認してください。